

第 24 期 第 2 回 八尾市図書館協議会 会議概要

日 時 令和 7 年 3 月 14 日 (金)

15 時 00 分～16 時 40 分

場 所 八尾市立青少年センター集会室

出席者 (敬称略)

稲垣 房子	(会長 元奈良大学 教授)
坂本 篤史	(八尾市校長会)
二宮 久子	(八尾市社会教育委員会議)
川窪 和子	(大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 図書館 副館長)
戸倉 信昭	(大阪市立中央図書館 利用サービス担当課長)
鈴木 縁	(公募市民委員)

欠席者 (敬称略)

江岡 信行	(副会長 八尾市青少年育成連絡協議会)
近松 真定	(八尾市 P T A 協議会)
嶋田 学	(京都橘大学 教授)
高田 正史郎	(八尾市地区福祉委員長連絡協議会)

事務局

浦上 弘明	(教育長)
太田 浩子	(教育委員会事務局副教育長)
辻内 文子	(教育委員会事務局次長)
永澤 行彦	(生涯学習課長)
上原 康男	(生涯学習課長補佐兼八尾図書館資料係長)
奥田 真美	(八尾図書館長)
浅田 耕司	(山本図書館長)
吉岡 雅之	(志紀図書館長)
鶴田 洋介	(八尾図書館主幹)
仲谷 智子	(八尾図書館利用サービス係長)
駒城 太士	(八尾図書館資料係長)
山口 みどり	(八尾図書館司書)
松井 律子	(山本図書館司書)
鈴木 温美	(志紀図書館司書)
川元 翔	(龍華図書館長：指定管理者)
長谷川 麻優子	(龍華図書館長補佐：指定管理者)

1 教育長挨拶

2 議題

令和7年度 八尾市立図書館事業計画（案）について（資料1）

委員：ボランティアの人材育成の取り組みについて聞きたい。

事務局：ボランティア人材の育成については、課題認識を持っている。ボランティア登録団体の活動をファイルにして図書館に配架するなど、団体の活動に興味を持って頂くような取り組みを行っているほか、絵本の読み聞かせ入門講座や朗読ボランティアによる大人のための読み聞かせ会の開催等を通じて、新たなボランティア人材の育成に努めている。

委員：山本図書館で紙芝居講座の講師を長年している方が、海外のワールド紙芝居フォーラムに招待され好評を博した。今後、様々な市民活動に対しても支援を願いたい。また、ボランティア団体が実施するおはなし会の市政だよりでの告知の充実を願う。

事務局：おはなし会については、ホームページや館内配架のチラシ等で広報・告知している。市政だよりへの掲載については、広報のルールに基づいて対応している。

委員：届けたい人に情報を伝えるためには、SNS等のメディアの活用も重要。一例を挙げると、大阪市では、司書が選定したおすすめの子どもの本を1冊のパフレットにまとめて、「こどものほんだな」として子ども読書の日に出版し、そのデータを市の子育て支援のラインに提供して、フリーに使えるようにしている。市政だより等、紙の媒体は、限界があるけれども、ホームページ等とリンクさせることによって、さらに詳しい情報に繋ぐこともできるので、考慮されてはいかがでしょうか。

事務局：SNSについては、八尾市ではあまり活用できていないが、子ども施策の担当部局が子ども向けのホームページのサイトを開設しているので、そこに記事を書かせてもらっている。

会長：龍華図書館でのSNSの活用状況はどうか。

事務局：龍華図書館では、イベント告知のチラシデータをフェイスブックに載せ、イベント終了後、直ぐに結果報告を挙げているので、利用者に知ってもらえる機会にはなっていると思う。

会長：大阪市立図書館の「こどものほんだな」は、何十年も続いており、私も信頼して必ずもらっているが、データで公開されているので、読み聞かせの時など、参考にさせていただいたら非常にいいかなと思う。

委員：事業計画（案）において、「地域資料の活用拡大を目的に書誌データの追加など整備を進めます」とあるが、担当と令和5年度以降の進捗状況を教えて頂きたい。

事務局：八尾図書館の資料係で対応しており、1冊ずつワード検索でヒットするように手作業で新規・既存の資料に対して、書誌を追加・変更している状況。昨年度から今年

度までの期間で約 50 の資料について、かなり緻密にヒットするように取り組んでいる。

委員：国立国会図書館デジタルコレクションでは、全文検索が可能など、索引の豊富化等の整備が驚異的に進んでいるため、八尾市単独本の郷土資料の書誌整備は必要であろうが、それを利用することもできる。

会長：今東光についても、郷土資料、地域資料として、大変、力を入れている。八尾のウリとして、是非、頑張ってもらいたければ進んでいくと思う。

学校現場での子どもの調べ学習時の取り組み状況はどうか。

委員：学年により発達段階に差があるので、一概には言えないが、スマホやタブレット端末で調べてから、図書室で関連する本で調べを深めていく状況。活字離れについては、課題意識を持っているが、子どもたちは読書が好きだと感じている。余談だが、全校生徒が学校の好きな場所の絵を描き、体育館の壁面を子どもたちの絵で埋めるという取り組みを行ったところ、図書室を描いた子が突出して多かった。子ども達にとって、読書の時間は、違う世界に行っているような特別な時間と感じた。

会長：郷土資料の話だが、府立図書館のホームページには、子どものためのサイトがあり、リンクを張るとすごく便利に使えるので、参考にしていただきたい。次に、2（2）「市内書店との連携を検討します」という新規事業について、説明願う。

事務局：市内書店の方と話をする機会があり、まずはチラシを置いてお互いのことを知ってもらうようなことから連携していけたらと考えている。

会長：事業計画（案）の「3 あらゆる市民が利用しやすい図書館」の新規事業で「こども関連部局が実施する（予定）するファーストリード・プロジェクトと連携し、乳幼児からの読書活動の充実を図ります。」とあるが、八尾市がブックスタートすることか。

事務局：ブックスタートとしては、平成2年度までは4か月検診時に絵本を配布していたが、今回ファーストリード・プロジェクトとして市内に5箇所ある子育て支援センターを通じて配布を予定しており、詳細は担当部局と今後調整する。

会長：ブックスタートのやり方は、自治体によって様々。乳幼児から図書館利用者に育って欲しいという点で検討して頂けたらと思う。学校現場でのタブレット利用の話があったが、同じく事業計画3(1)電子図書館の活用状況は如何か。

委員：市立図書館との連携で、年間通じて大量の本を貸してもらうことで、学級文庫が充実しており、非常に助かっている。例えば、図画工作の時に、早く終わった子は、学級文庫の本を読んで調べ学習の続きをしたり、好きな本を読んで感想文を書いたり、本を活用している時間が教室の中では当たり前のようにある。また、子どもたちは端末を持っているので、電子図書館にアクセスする子もあり、調べ学習、読み深める活動等で本当に助けて頂けていると感じている。

会長：電子図書館の利用状況をわかる範囲で教えてほしい。

事務局：学校連携を令和5年10月に開始してから、かなりアクセスが増え、特に朝読の時間、授業が終わる3時ぐらいまでの時間でも使っている。

30代から50代の利用者が多いが、さらにたくさんの方に知っていただくため、電子図書館体験会とかのイベントを行い、周知していく。八尾市立病院でも職員向けの体験会を行い、入院患者にも電子図書館を使っただけのように試みている。

会長：事業計画の3(3) 令和6年度の新規事業、点字版利用案内による図書館案内は出来ているか。

事務局：今、最終校正という段階です。

会長：やさしい利用案内(LL版利用案内)や、外国人向けの利用案内はネット上で上げているか。

事務局：やさしい利用案内(LL版利用案内)は図書館内で手にとれるようにしている。外国人向けの利用案内は対応できていない。

会長：図書館内に置いてあるだけでは、必要とする人に届かない。

委員：シンプルな日本語、文法に忠実な日本語で案内することが、日本語を母語としない方々が地域社会に溶け込んでいく一つのきっかけになる。電話等で日本語で伝えることはハードルが高く、電子申請はそのハードルを下げる効果がある。

委員：中高生がYAコーナーに来てくれるような取り組み、SNSの活用等によるコミュニティの場の提供も考えてほしい。

事務局：SNSの活用については、市全体の方針もあり、各所属での発信は困難。

委員：入館者の目標数値ですが、全国的にコロナ禍前の入館者数を回復できていない中、令和10年度の目標数値90万人は余りにも高すぎるので、見直すべき。また、非来館型のサービスが充実していく中で、指標が来館者数だけで良いのかという観点からも検討が必要では。

事務局：コロナ禍前の入館者数を超えるのは難しい状況。目標数値の見直しについては、変更できるタイミングで検討したい。

会長：八尾市としての非来館型のサービスの捉え方について、SNSを活用した情報発信も含め、図書館全体のアピールもしていけるように考えるのが良いのでは。

以上